教令類纂初集

百一

内閣文庫
番號 和 33393
冊數 73(74)
函號 265 277
(四七才)

国立公文書館
National Archives of Japan

教令類纂初集百一

長崎ゝ部　自延宝五年至享徳四年

延宝五丁巳年二月廿五日

一阿蘭陀事

御仕ゝ日本高麗了仕者　仰付ゝ毎年

長崎令召寄ゆけ以上ゝ　仰付ゝ奥方ゝ

切支丹宗門通用ゆ不仕者入牢ゝ堂何迄ゝ

[illegible]

門より日本に通ず一切不仕勿論家つゝもの
無之事ゝ
一不拘日本高麗渡海仕候者ハ切支
丹宗門之義ハ申少分不知者ゝ
下ゝ有雲人宗門之義ハ新規ハ入不
有ゝ渡海ゝ厳敷申渡ス
長崎奉行人ゝ二ツ上ル
一日本渡海ゝ唐船不奪ゝ阿蘭陀船来ル
ゝ日用雲人三ツ合一ツ宛ゝ
雲人ハ通用不仕為ゝ
一ツ宛ゝ為至ル書付ゝ毎年差ゝ
長崎奉行人ゝ一ツ宛ゝ
附琉球ゝ日本ゝ
見合ハ奪ゝ
延宝五巳年二月廿日
右ゝ書付ゝ
阿蘭陀人ゝ

切支丹宗門之儀ニ付大目付方ヲ以ト
申渡
右御書付写

延宝五丁巳年五月廿二日

右之通ニ付ハ
大坂ニ而ハ
覚

一長崎奉行人ニ逐吟味用捨有之ニ付
この中迄ニ有長崎ニ而ハ
江戸ハ
江戸ハ雑談迄程ニ為ニ又ハ不及申
至上方ニ而ハ
不絶ニ而ハ
一九州ニ内邪法宗門ニ徒党又ハ乱業ニ
企ニ付ハ

一、唐船積来候人ニ而致不申候而ハ
又ハ而ハ日本船ニ乗候ハヽ上ニ以連判江戸へ可
有注進候事

以上

延宝五丁巳年五月廿三日

右出羽記
　参延令條

延宝七己未年三月五日

覚

一 阿蘭陀事者 御代々日本之商売之仕合
ニ而、依付毎年長崎参着しめ候、然ニ而彼
ニ而伝世之奥南蛮之切支丹宗門之通用仕
へからす段入能ニ申いつまの由より申もの
ハ不申日本渡海一切停止ニ而彼宗門之
日本ニ而通用ハ一切仕りへからす勿論宗門之
船小のき来りましき事

一 不拘日本唐高麗渡海仕度者ハ切支
丹宗門之儀有之候ハ、其者ハ
之南蛮人宗門之儀、自分彫親ハ
ハ渡海之儀無之候ハ、其者見及申候
長崎奉行人まて申上ル事
一 日本渡海之唐船ハ阿蘭陀注文之
ハ内奥方南蛮人ニ対面ハ
用仕ル事ハ不苦候ハ、其者ハ
奥書住ル毎年若者の内ハ長崎奉行
人ニ申渡ス事
附琉球国ハ日本に対高ハ
見合ハ浦和奪之ハ
以上
未三月六日
右令條留

天和二壬戌年二月

覺

一諸國高麗人長崎ニ居ル事不同ニ不為度
ヲ以ておのおの定ル七月五日切ニ長崎ニ居ル者共
連ル家中ニ一條ノ書付

所司代ヨリ代官ヘ下ル十日
渡ス

一貿易高麗ニ年毎ニ七月五日迄高麗人長崎ニ
居ル者共ニ於ては切不帳面ニ注
ス ル ヲ以ニ一度ニ紙貿易ニ付
除ノ金ニ直段ヲ書ヲ
代銀ヲ直段ニ
一日本銀ニ年仕来通ニ二度ニ阿蘭
陀ニ高麗ヲ
日本銀ノ事

一阿蘭陀貿易代金ニ年ヲ金ヲ毎ニ

銀弐八匁ニ付唐銭百文宛ニ
て唐銀百匁ニ付唐銭百
匁ニ付銀六十八匁ニ唐銭
積ニ
て

附日本ハ唐銭ハ古銭銅ハ日本ニ
て伊予ニ焼物ニ
唐銭ハ唐人ハ
銭ニ付銀ニ
て

一唐船ハ銀ニ付銭百文宛ニ
て唐人ハ唐銭ニ
付日本ハ銀ニ
て

附若唐人金子ハ
言て

一法度商人長崎ニ
長崎人ハ

代官等之儀ニ付西辰ニ積入ル分ニ南あるいハ
西ニ被仰付向後京都大坂長崎ニ市場ニ而
右場所ニ付

一何事ニよらず手ぬかりたくミを以て法を背
少事有之ハ長崎ニ而ハ指置ハ方遠敷すべし
然ル上ハ長崎ニ而商賣ニ付ニ仕ニ而ハ
下ニ切度科事

以上

右之通被仰渡候ハ長崎可申付旨ニ
被仰付ハ京都大坂堺町中ニ而ハ
左ニ

三月廿二日

永井伊賀守殿　石丸石見守殿
京都ニ而ハ
渡辺大隅守殿
浅田出雲守殿

右大成令

水野伊勢守殿

天和二癸亥年二月

覽

一羅紗　一猩々皮之外毛織類

一金糸　一生類　一植物類

一琥珀類　一薬種類

一薬種ハ去る唐ハ

右ハ入津私隠持来向後月番ハ調ハ第五番

上ゝ者可為ゝ者也

天和二年亥二月

右令條承

貞享元甲子年十二月廿六日

糸割符之事

一糸割符之儀去年中ニ　仰付以前寛永中

割符之事ニ　仰付候色ハ唐高麗ニ成ル寛

文十二年ゝ貞享元年迄十三年ゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

貿易商賣ニ付 伊豆屋三五郎より
先年糸割賦ニ付 御書

覽

長崎奉行阿蘭陀商賣人願之通糸割
賦仕ル儀ニ付伺書 右ハ去巳商賣ニ付ハ切
支丹宗門之筋弥以可入念之旨 伊豆ル
考也

子十二月廿六日

右法令雜錄

貞享二乙丑年六月廿二日

南蛮人ニ上ル覽

一當去天川ニ日本人ヲ除其外ハ送
懇私ヲ仕立送船ニ搭乗ル者共長
崎ヲ出家請ニ十月南蛮人ハ本流海ニ乗
ヲ雖為不制禁ト度ヲ除其外送

来り二十上家一つ義有之由相聞申候
百姓共相申候ハ公儀御帳中ニ有之候間
渡海仕百姓ニ相対候帰国致候ハ
ゝ惣一百姓共ニ成申候ハ
乗中波二ハ乗ニ相申ハ
相私一ノ仕業
八上
六月廿二日

貞享二乙丑年六月廿三日
南蛮私渡来者書
尚月四日ゝ別紙至被差
一南蛮私附参ル書私ゝ俵古村周情ニ有之ハ
長崎ニ有之松平右馬佐様御領分ニ有之
参ル婦女二十五人ハ南蛮船二艘
右船ゝ長松平筑前守様ニ被尚書ニ帰帆

盤固紙背ニ付テ仕度ト注文遣候方就度
旨尚書有之書簡共ニ別紙ニ認メ候例勘定ニ
右掛ル方ニ而ハ掛中度ニ永堂ニ且又前月二日
寺島紙ニ接使等来武異国来ル紙ニ被相渡
陸ニ方上紙庶意ニ被ニ不録書第無之ニ高麗
御ニ一切ニ持度ニ聖王書ニ接使書ニ再三
穿鑿有之ニ付ニ邪家ニ家ニ邪家ニ安堂ニ委
細ニ書宮城監物方ニ書ニ堂ニ持ニ云

以上

一拾弐ヶ日本人ニ文陸ニ掛ル衣類不足ニ付
第無之ニ而ハ窮ル掛リ方ハ宮ニ寄ル人宛端
物ニ付ニ色ニ寸ニ法ニ寸ニ法ニ天川ニ遣第
又ニ方ニ紙中第邪陸ニ第一云ニ而ハ云預ニ用
無ニ而何掛ル第ニ二回ニ平ニ空ニ又ニ書監
和方ニ手ニ書ニ庶ニ方ニ右ニ掛ル云上ニ
而寺島ニ陸ニ帆ニ付ニ答ニ 作業ニ方ニ十ニ

越前国領内諸日本海海上地方
内偽之者ハ其通用不仕候ハ、急度申付次
第厳重仕可申候尤右之趣ハ
去ル廿五日城内要細ニ備ヲ宮城監物方ヲ
以申渡ス
可申聞ハ此方ヲ以上
八月廿三日

松平内匠
戸山城守

川口源左衛門殿

大加賀守

貞享三丙寅年六月廿日
以別紙申入ル
一今度之儀ニ付而要人ニ成ル者ハ
ニ通弥堅ク可申渡ル所也
廿二日戸山城守殿源左衛門殿

度ノ儀ハ御用不調ニ例ハ者ノ度毎ニ作ル
ヲ為ル方ハ一ヶ月ニ三度ハ御ハ上ヶ通或ハ通ノ儀
情中ニ成ル方ハ儀ニ作ル方ハ此通ハ上ヶ通ノ
ヲ以ハ毎月ニ度ハ諸ノ書面ニ通ノ儀ニ
作ル天川ヶ下ル方ハ雲人衣類食物ハ
中ハ此度ノ書ハ又ハ通ノ儀ハ用ル方ハ
第ニ不入御ノ方ハ書ノ通ノ度ニ作ル
ニ付別紙ノ通ノ事

一 今度雲松帰帆ノ用捕鯨ノ為ニ九年ノ義
為ノ通ノ松帰帆ノ儀ハ御用捕鯨ノ為ニ
御用ノ方ハ弘通ノ如ク御鯨一ノ儀
ニ作ル事

一 雲人ノ方ハ通ノ儀ハ八年ノ限
ノ方ハ長崎ノ国ニ海ノ方ハ遠慮
無ノ事ノ方ハ諸文ノ儀ハ
御預ノ通ノ方ハ諸文ノ儀ハ一ヶ月

同寺支配不入相違ニ付仰渡書

一 甫雲人ハ代藤義美ニ而五拾俵ニ付
佐渡屋ニ解相相違ニ付仰渡
諸家解人村川ハ遠藤門ニ付一日ニ人小
七会ハ五拾俵佐渡ハ計積お者ハ相違ニ付
ハ代藤ハ五拾俵ニ付仰渡
右ハ相違ハ代ハ日積仕ル者ハ解相違

金弐拾三ツ取三十俵ニ付仰渡
人扶持ハ新用ニ付高本俗遠藤
内ニ付佐渡ハ計ニ而何ニ仕ル三十俵ハ
ニ而二ツ仕ル三ツ仕ル仰渡ル
一 吉川ハ代板又ハ相違ニ付扶切支丹
板ハ五ツ取ル者ハ甫雲人ハ近ハ
小八相ル者ハ五拾俵ハ吉川ハ

為之帳下單物帳中紙若干帳
中可為之所及為之焼捨共之
時日十四日之夕之之上至山城守殿之作日
吉様之御好事

一於之地壮之酒肴世彩小之諸色之
為賄賂一所小又之之国中之小三郎伯耆
壮業酒肴之物之至之之
諸賞之為之作事

一今度伊勢中之指図人之城之作下知
為之返之籠屋指図之之之山城守殿
之作度為之之之事

以上

六月廿三日　宮城監物

川口源左衛門殿

貞享二乙丑年九月

一貞享二年六月二日南蛮人船ニ乗入津南蛮人
四十七人日本人拾弐人京都ニ送ル
一右日本人ハ伊勢ニ而被召捕且三月ニ右天
川ニ隠居仕ル彼地ニ而ハ無仕立送
被申候ハ唐陸ニ被ニ入申即刻捕使ニ
指ニ出ス南蛮人日本ニ為渡口書ハ
ナシ
一書私ニ拾弐ヶ月ニ付御本村用
情書ニ而ハ中ニ私ニ渡ス巴ニ用ニ南蛮渡ル
右通ハ右ニ付御勘ニ相ル中度ニ年
南蛮人ニ長崎ニ長親類ニ南蛮ニ帰
帆ニ付ニ私ニ右通ハ書ニ家来
ニ預ル中ニ度ニ南蛮私ニ書ニ地ニ渡ル
例ハ帆ニ二度ニ右ハ御ニ相ル中度ニ此方
ニ私ニ艘ニ船ニ右御ニ
一日本ニ渡ル度ニ私申武具悉ク上ル

一日本人拵式人有之候ハヽ詰之筋相揃り
候共並源流を拵ふ天下滞無之内切支
丹宗門之儀ハ古勿論ハ不及申近年ハ絶滅之事
ハ長崎江戸ハ及申之事
一私中壮年ハ不見お調方ハ中世隆預り候止事
ハ不少ハ代為詰之少ハ代為と年切国方ハ所
不限ハ出調帳帯為之事ハ
一彼私儀ハ去六月廿三日ハ書七月六日ハ書

一来酉聖日七日拵使ヲ以上書ヲ以通詞共
有之人ハ度ハ而長崎ハ帰ル海帆ハ仕合
及詰ハ出ハ逆風ハ漂流商船漂流私ハ月ハ依
風ハ私風並ハ京海帆聖二日帆ハ見隙ハ出母
至是ハ不注之事
一日本人拵式人ハ家ハ遣百姓下知ハ者ハ有之御下
ハ事

仮拵式人ハ持ハ金銀ハ張ハ遣是ハ別紙目

[illegible]

五九月　　川口原左衛門

貞享二乙丑年

[illegible]

一長崎地下人仕米料ニ付米運送事

[illegible]

一長崎地下人奉公料ニ付奉公方サカさる

[illegible]

一南蛮料ニ銅ヲ帯おびし仕候事

一代銀ヲ以買入仕料ニ付仕分

一唐人阿蘭陀ヲ為ル賜ル九ヶ年ヲ限ル九ヶ年ヲ限ル

分ヲ以法ニ遣ス儀ニ付

附唐人ヲ我儀ヲ法ニ遣ス地下ニ風俗教化

[illegible]

[illegible]

一地下公役之事無沙汰之上無用之役を停止
分費を減ぜし地頭名主に指置
右七ヶ条長保地下人出生の輩
以下略
月日
右法令雑掌
貞享四丁卯年十二月

掟制
一侍方連日在京度々
一日在京武具兵粮持度々
一日在人兵粮海道
所日在住宅兵人員
右條々於違犯族者速可
下知如件
貞享四年十二月
吉行

右令條承

元禄二巳年六月九日

一長崎奉行ニ達ス

仙年お荷商賣ハ仕度旨ニ付調ル方ニ

寄ル上方色々直ニ成リ空ハ不申候ニ付美國

為相ニ減リ方ニ付商賣ハ取為ニ仕度旨

三お達ル仙年ニ商賣お考ル中ニ六ヶ敷

ル直ニ相入リ申ニ上ル故堅制禁ニ

元禄二巳年七月

ル方ニ為相当リ不ル二ニ

ル方ニ為ニ商賣ハ

元禄二巳年六月

右令成令

禁制

一 禁制三ヶ條ニ付テハ九位方文字

一 諭唐私信人

右ニ武串二ノ門ヘ建

元禄二年七月　吉村

右令條承

元禄八乙亥年八月廿九日

覚

一 於長崎唐私行商阿蘭陀荷西定限ニ五千貫目ニ

付唐方ニ対シ商売ニ付而ハ仕訳ニ九貫目分銅

壱ツ付ケ下　作者銀ニ五百匁運上ニ〇貫上ニ

江戸町人伝見屋ニ商売場ニ被頼ニ〇貫目

以上

亥八月廿九日

右令條留

元禄十丁丑年七月廿六日

覚

一 唐船阿蘭陀より持渡り申候生糸類長崎
可申付候生糸類長崎
用申

一 唐船阿蘭陀共ゟ酒類長崎
長崎申付

一 長崎ゟ御本国江の出会少分伺入書
ゟ書

一 ゟ書ゟ指図之仕方ゟ御出申
以上

丑七月廿六日

右令條留

元禄十丁丑年八月

覚

一 長崎ゟ唐人居船ゟ地法ゟ入込ゟ於ハ博士

此仕置法入念候事ニ付西蹟仕候者ニ対し御
褒美被下置候ハヽ其国人ニ通達仕
情願申出候ハヽ其国奉行ニ相達し
自ら之ハ申出

一 公儀御法ニ依て左役ニ付き事ハ
下方勤候事

一 江戸ニ住ス武士ハ通ニ之御覧ス

一 長崎ニ住役人ハ其年番ニ御覧ス

数ヶ所用達ニ利分ニ成候ハヽ其記相応之用ハ仕度密ニ内
〻の仕置ニ相応仕御勘定ニ成候ハヽ
可申

一 長崎ニ右国澤ニ華蘭ニ限ル事ハ中ス事
ハ向後御役所ニ御褒仕可申候ハヽ
可被仕候事ニ付

一 高麗ニ私曲之儀ニ仕候ハヽ不仕候ハヽ
実ニ保ち御褒ニ一の仕ハ若私欲ハ
利潤を云限

[illegible]

一[illegible]

右之通急度[illegible]

元禄十年八月　日　小佐渡守

右　相模守
戸　山城守
阿　豊後守

近[illegible]

丹羽左近[illegible]

[illegible]

右令條留

元禄十丁丑年八月

覚

一 於長崎異国船商売者年々御割直段ニて従来
商人買取候得ハ諸色高直ニ成御為ニも無之候ニ付
去年ゟ向後商売高直ニ成候段諸方之費と見利し
候ニ付而無左様有之候様ニ被仰付異国船商売物直段
被成せ異国人共ニ仕置候様ニ積を以申上る
不及日本之直段御定之直段直段を相違ニ

一 商人江売渡候所ニ前々ゟ付而ハ右直段ニ而
銀何程之余り候節ハ其内を以運上銀ニ申付上納
右之銀ニ而長崎之役人共御扶持方町中返銀
候様ニ仕置 [illegible] 銀子以前ニ入用
数ニ御用銀之分 [illegible] ニ而者被申付長崎之者
余銀ニ相成候 [illegible]
公儀江ハ枚数を以テ別ニ差上候様ニ今度ゟ月分ニ而壱万貫
程不苦 [illegible] 之様ニ可仕候

費共ハ味噌上下共其儀ハ（　）下ニ遣ス意潤
ハ格ニ者下ニ存ル

一　右仕方ニ拾町年番共相談仕之儀密ニ仕法ヲ正
法ニ徒排ニ仕置ニ入ル下度仕方能々可慎ス所
年番共ニ不届ニ付ケ方ニ右ニ役儀ニ
無ものを居候ハ拾ヲ一ノ者ニ可申渡ス
度ル

一　同代ハ拾ヲ拾ヲ要用分可慎ス所ハ拾ヲ要

用余ニ成候ハ拾ヲ可申渡ス
下ニ存ル

一　糸割賦ニ拾ヲ拾ヲ味割賦ニ拾ヲ勘用ハ拾ヲ
ものを貪欲を拾向好ニ者ハ拾ヲ
上ハ領戸ニ拾ヲ拾ヲ直段ニ者ハ拾ヲ
通割賦ニ者ハ拾ヲ無ハ拾ヲ

一　砂糖ハ拾ヲ江戸御用ハ拾ヲ
下ハ拾ヲ意（　）ニ者ハ拾ヲ

以書面異國船取扱ニ付諸向申渡ス覚書ニ
直段ニ買入ニ付調法ニ成筋ニ付お考ニ
付お渡ス
大坂ヨリ長崎ニ廻運ニ付願ニ付の書
写ニ付ニ成候ニ付申渡ス
右之通ニ付申渡ス上ハ為ニ上ハ
以上
丑八月

右令條書

宝永六己丑年二月廿九日

覚

一十二年以来長崎ニ於て銀高ニ付
ニ向後銀止ニ付ニ付一ニ付度ニ成候上ニ
為ニ上ニ付ニ付ニ成候ニ付
其外ニ十ニ付ニ付ニ付ニ付ニ付

[illegible]

三月

右之三月廿九日御[illegible]

右宝正令條

正徳元辛卯年十月

條々

禁制

一御[illegible]

一領城ゟ女人入ル

一出家出仕勤ル者ハ食入ル

右條々可[illegible]

卯十月

右令條録

正徳元辛卯年十月

定

一 第ら定亜役人ら分二ら門分円ら出入信止ら
ら

一 庫人自ら出ら出交商者あ者ら出ら出ら一の
中出ら

一 持ら円ら持入ら信色茶分ら持出ら門ら門妻有ら出及
ら

右教法寺お寺者也

卯十月

右令條涌

外妻有

けかさ入ら円ら妻人茶小使ら分用ら出
ら右出出入仕ら妻ら出ら出ら根入ら去ら出ら出入
名変出ら出ら出ら者也

右令條項

正徳元辛卯年十月

蘭人旅宿ニ出島商賣ニ付

定

出嶋町

一 蘭人長崎人ニ法度ヲ背き依得ル商賣

をたくみ礼物を出し牧ひ去ル者ハ

銀貫目数十ヶ所ニ云ヶ沿を免し申されあるニ倍

成ル歟ハ蘭人ハ追放ニ成ル者ハ

卯十月

右令條項

諸商人ハ一切船ニ可乗の者や

出島南方海中ニ建ル

榜示木

右令條承

正德三癸巳年二月七日

近年長崎ニ銅銀限有り唐人共商賣仕候
唐船ニ而ハ一年ニ五拾万斤宛ニ而
ハ有之ニ去年大坂銅吹屋
ハ去年ニ比ベ二十万斤ハ
大坂ニ而銅買求候ニ付唐船ニ
吹味ニ成ル故元文ニ付ル間敷旨

御書付ニ而ハ唐商賣ハ長崎ニ
ハ過ル銅ニ而ハ
十万ハ大坂ニ而ハ
長崎ニ銀ハ
長崎ニ而ハ
唐人ハ
ハ一吹屋共方ニ
ハ世上ニ
ハ
ハ

[illegible]

[illegible]月向後猥成俗[illegible]

乙六月

右令條目　大成令　正嘉元年　同象令條

正德四甲午年五月十一日

執政府奉

上旨下長崎奉行所　題為捕勦海寇特嚴邊禁

事凡海舶通於我国貿易者我使有司厚加
存撫使毋累其貨賣各遂其利事無小大歷
有制度毋敢濫冒各處客商輻湊之有其所
舟楫往來之有其路即遇狂風被打飄到之
路之外各沿海州郡等發役收保轉免為安
資給米糧薪水等護送長崎驗覈各商亦遵
我　禁令恪守毋犯得遂生意已及百年矣
惟近年以來奸商蠹害為蔽不淺射利影冒

肆意妄走不由定路出沒風浪誘我商船竊
發私販上岸登山戕伐竹木至如網捕魚蝦
亦被刼奪或揮兵杖擊傷居民或發火砲震
驚邊境原沿海州郡等體我懷柔之意不敢
抗禦故縱而去之遂使枝黨滋蔓倍甚意者
百年以來各處客商往來絡繹無不請我
国禁況今大清諭称昇平遐邇嚮風豈有治
化之民出外横行剽掠哉非其類也聞之閩
廣溫台寧等海澳一帶海賊盤據嚴加捕勦
賊奔無處躲避蓋其餘賊乘隙走竄擾我邊
境日張充勢營為巢穴即此類請
旨下各道沿海等處務要守備見有賊船影響
奸商私販等狀訣各州郡發哨船捕勦傳首
都下毋容少緩專察賊情毋使遁跡一掃
海邊寧靖為期特
諭長崎奉行竹談依前伴使各舟揖往來必由

定路勿妄之越境但洋間風信難準一階不
測之路或飄意外之地輒依例速報為憑言
為自辨要須各處客商人民通船弟兄等遵
依 国禁毋有背違
諭到明告知悉
正徳四年五月十一日
大和守源朝臣
右令條

正徳四甲午年六月廿一日
毛年寄長崎注書ニ唐私商ニ文年ニ
右長ニ或ハ注書の条節カ或ハ海上ニ
行ハ二度ハ日数を送ル或ハ文ニ見ル来
ハ私ニ書ハ切ニを不知ハ陸ニ上ル
水を三ニ本を伝ハ法私ニ捕ハ網魚ハ者ニ
ハ人庫ニ年ニ送ル者ニ奪文ハ人ハ制ハ附ハ公

（…）異船相近つき候時ハ石火矢抔打かけ
候事も有之由、然処右ニ依て長崎奉行所ニて何月
唐人共へ申渡候子細有之候間、月々何様之異船共
寄り候共御法度有之、常ニ海上ニて出会候共、右之唐船共
抜荷之者ニ而異船を切捨候而も不苦之旨被
仰付候、然ニ異国之船共唐船ニ相付候而抜荷有之ニ付其人を
搦捕り其上ニ而有徒党ハ雑風ニ逢候漂着之儀候ハゝ抜
唐船之内ニハ如斯之例有之御法度候処長崎へ注進

有へく候也

午五月

長崎沖来り候唐船私商売之為年々ニ来り候て
外ニ御法度ニ相背候者有之候ニ付、此度唐船之者
共へハ長崎奉行所相改候て段々仰付候
今度有之候ハ、此上ハ海上ニて出会候ハゝ不残打払候様、当年
領内之船数之者抜荷船切捨候てハ不及穿鑿ニ御沙汰有之

若私方ニ者ニ対し為ニ私を偽あるを以て
百ニ八云々 仰出候ハ 仰出候ハ私を捕
捕方ニ遣ハ候ハ為ニ度ニ云々下知ハ自ニ公儀私ハ
ハ候ハ云々不限私方ニ者ニ対
少ニ八ハ私ニ者ニ対し云々 仰出候ハ
四ニ方ニ者ニ対し為ニ度ニ云々

四月

松平隠岐守　松平伊豫守　松平備後守

松平左京亮　松平対馬守
松平右衛門督　松平民部大輔
松平出羽守　松平民部大輔
細川主税頭　松平左近将監
小笠原左近将監　松平出羽守
立花飛騨守　松平陸奥守
伊達伊織　松平左京亮
松平主殿頭　松平左近将監
中川内膳正　松平左近将監
松平左京亮　松平左近将監

伊東修理亮　松平周防守　京極若狭守
稲葉伊豫守　黒田信濃守　酒井左衛門尉
小笠原遠江守　長井信濃守　松平宮内少
伊東和泉守　古村伊勢守　松平遠江守
松平隼人正　島津信濃守　秋月山城守
本多薩摩守　本多飛騨守　池田内匠頭
相良左近将　毛利周防守　森　和泉守
森　対馬守　岡　備前守　小島左近将

松平河内守　久留米伊豫守　伊東播磨守
小笠原左近将　一柳周備守　京極左近将
立花出雲守　青木出羽守　一柳対馬守
鍋島加賀守　鍋島中務守　鍋島和泉守
黒田伊勢守　細川采女正　細川伊豆守
加藤出雲守　毛利筑前守　毛利右京
毛利讃岐守　池田右京大夫　阿部伊予守
保科美濃守　牧野備後守　石井大炊頭

石川宗十郎　松平對馬守　松平豊前守

松平隼人正殿　板倉右近

右之面々家来吹井上河内守宛申渡

仕候様

伊藤

右大城令　令條留
為出覚書

正徳四甲年八月　長崎奉行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月

右正徳録

覺

一 清左衛門殿へ私方へ借り申候長崎表銀拾貫匁
之内へ差出申候内五貫匁相渡申候ハヽ
御証文を以て借り申候私儀ハ拾貫
匁之内五貫匁相渡申候ハヽ
其文ハ為三日限ニ証文を以て
差上申候清左衛門殿へ私儀
長崎表銀拾貫匁相渡申候ハヽ
長崎表ハ不及申上候
程を過ぎ不申候ハヽ
其又私儀ハ
可申上候何方成共私方へ
若御尋を掛申候ハヽ
不申候ハヽ
申上候
私儀水を名乗候
一 清左衛門殿へ私儀
中ハ成共或ハ私方へ
掛り申候ハヽ
掛り申候ハヽ
此度ハ私借り
一 清左衛門殿へ私儀
中ハ成共或ハ私
掛り申候ハヽ
掛り申候ハヽ
此度ハ私借り
一 清左衛門殿へ私儀
中ハ成共或ハ私
掛り申候ハヽ
掛り申候ハヽ
此度ハ私借り
一 清左衛門殿へ私儀
中ハ成共或ハ私
掛り申候ハヽ
掛り申候ハヽ
此度ハ私借り

べきこと

一 所々私領ハ私ニ私領ホ出来候て借ハ[illegible]
水ニ[illegible]働ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
私借[illegible]ハ私ニ私領ホ出来候中ハ[illegible]
[illegible]

一 法国庫方ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

掘抽[illegible]者ハ[illegible]ハ[illegible]
科ニ[illegible]

右[illegible]者[illegible]

正徳元年二月

一 [illegible]私[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

御ゝすべき事

一 抜荷仕り候者を同類ゝ内々取扱或ハ訴人仕候ハ
右ゝ荷物取隠候ハゝ二倍ゝ可申事

一 庚人ゝ抜買ゝ者ゝ会又ハ者ゝ云合ゝ云次を以
或ハ抜荷物仕候ハゝ雇ハ主ゝ或ハ主ゝ
携りは者ゝ訴人仕ゝ おのゝ ハ高ゝ ハ襲美を二の
ゝ下ゝ ハ八回類ゝ者ゝ ハ科を免ゝ 使張札
張ゝ今ゝ以後一倍ゝ下ゝ 可申事

附 只今迄抜荷仕候者ゝ宿主ゝ或ハ抜
荷物請ゝ者ゝ或ハ会仕ゝ者ゝ訴人
ゝ者ゝ又ハ科を免ゝ ハ襲美を
下ゝ 右同断ゝ者ゝ

右ゝ隠ゝ者ゝ一倍ゝ者ゝ 者ゝ 張紙ゝ
家財ゝ 其科ゝ 者ゝ

正徳二年八月

右令條留

正徳四甲午年八月

長崎奉行より被仰渡書付

覽

一長崎諸商賣の儀人別の元直段引下げ
仰付一つ宛被仰付候て商賣高直
仰付候世上の取場仕法に成候も勿論仰付候
此方の商人長崎へ参て直段賣候は賣
方一仰付候て直段に成候に付て
仰付候

仕方に成候て諸商賣
人の元直段と仕方に成の取場と商賣
下直仕方に成仕は其儀仕候ものも
商人方の元直段を引下げ仕の儀
無御法に可申候

一當午入港之商船年内に商賣の儀
高直に成に付御奉行海
路難儀の段に成て帰帆の儀を願

以ものを以て前年への借の要払共高年ヨリ深
為ゝ〳〵に改元のつもりを兼て不法者
つゝをいて預り手くに相帳一つ方ゟ其年
深海ゟつゝ不定ゟ以て口払ニ用しく毎年の根
つゝ本帳持ゟ

一前年の年寅ゟ南院人方ゟ要書張ゟ内
地不配ゟ金十ゟ毎三銅ゟ金ゟ或ゟ毎三ゟ例年
れてゟ銅ゟ運上ニ付て臨納ゟ

一の仕分帳を元帳ゟ立て長崎ゟ差出
金ゟ何ほゟゟ掛番帳ゟ注文あるつき
ゟ

以上

八月

右令條

正徳甲午年八月

長崎奉行松浦肥前守書付

覽

一 奉行中格式の儀ニ付而ハ御家柄ゆゑ不
可致ゆゑ奉行ハ勿論其外ハ弁ハ不及申ス式ハ級不
可用ゆゑ無人数ゆゑ地下ニ成ル者ハ
役料ハ名を高ゆゑ表役ハ格ハ一ノ表役
格ニ成ル

一 今番御勘定の儀ゆゑ勝手ハ地下の法級
御配分銀ハ格の通ハ不迷ゆゑ細ハ言を以味方又
ハ書ゆゑ一の例式ハ三ツ共用ハ停止
一ツ宛ハ減省ハ格ハ五ツ宛ハ
よ及ハ申ス

附 奉行面者ハ後年ハ御の料地
格ハ明ハ御難用料ハ不足年
所不審ハ有ハ申ハ御用ハ後者
吟味ハ方ハ仕方ハ書ハ拾二十ハ年

逐以大切之儀ニ出し候處奉行衆より又地下
人のためニ不相成ハゝ早速可申付候事
委細ニ吟味之上ニ而致し候ニ而御沙汰可
有之候事

一去年中地下人共難業ニ付御沙汰有之ニ付当年
又地下人取求運漕之御定儀ヲ反古ニ仕候之
之候ニ付地下人取扱のためニ而ハ上ハ京都中
無之候ニ付而ハ壱ヶ年一貫之事

附町中帳面之儀も其の人吟味之上相定可申事

一右之通相守可申事

右條々之通申付の事細ニ御定儀一々相守可申候ニ而
心得一ヶ條ニ而も相守之儀ニよりて京都中難儀
不成之様子細を申付候ニ付ては下々迄ニ而も何様
のつもりニ而も申聞ニ付而も書付を以可申出
仍如件

八月

右令條

正德元甲午年

老中　仰せ渡けて長崎奉行ゟ

毎月二海上より対馬へ渡す書簡

しるして長崎表の制禁と厳密すべき

事あるべき事柔和の仕方にて事

しゐものをはこたりしに役人

仰せ渡

事あるべきのさまをけたくと

ゟ利害をこうるれ去ル陽ゟ

此度法をあらためこれ地ゟ

長崎の仕方あつまり場所の西ゟ

注書すべき書簡を此度の信ゟ

あひて此度れを筋ゟ外へ漏ゟ

長崎の役人ゟ役人

あやまりを出して

お稽古ゟ

荒水かたをうるを長崎へ渡して改を
うまくしめうる者出れ商人ゑこれを
法かきいうしたがてあやまり遠祝のう
ちく度世御をけいるやすすふ百年ふるへて
なる近年米がまいまい商の害をなすす
ゆうすはきまるか条節ゆうを重て内宝の反
節をゆうすみえ川ゑ海上ふるゆり
屋てこれを人御引入るす私商賣ゆし

法へ上りて竹木御きて漢人の御りし無そ
も劫しうなる或は会員御ふくまハして民
をうちきずつくんとし或ゑ大名御うち
うまてこをを弱うすえ本二年これ海を
の西形ゑは二ちいのを国人をは御ふ情態
れふうゆふゆをくをくうるゆ御ゆ
ふ国きて二日御うちうくゆるを作ゑ
をきとゆうしてやりくゆ原ゑ三ゑ新の

この年ごろ年月相間すること百年ばかり
佐渡の商人共はつねに海賊城
をもつぬものたりしまゝにてやをたゝせすれ
ども平地せこひて左近のゐ千風むすこ三
郎左衛門尉かたのつる三位ふうるほ
商人共他国へ出てほしまきまふめ此のすを
なすこゝろのあるべきや空宮方の商人
なりてはあるべうすけ佐渡の海賊共
海賊多く宮よりこうろうさるこゝろ
なの海賊共此當のかゝるべうこゝ
此海上ふさけあるべたふこゝ者身命をせを
海ゝ（きやうきいと左むこゝ見へたりこゝ
よりて書状以て西国の諸大名へ仰せを
ゝ農商ふ海ゝ二神すること賊船の神私
高麗ゝと仕ゝるものを見つけるを書船
かしこゝ（こゝ）こゝ者賊こゝ（さし

上へしかるべくようしゃすべき事之ハ
其のあらましを書しるして御書のうへに
しるし海をへだてさせられすきとなりたる
ハ城以下ニ為三すへしとかるして長崎奉行へ
ゑ　作者はけかの船を拘留致置人
かへよりくまきうをもて家筋れかたりいたす
中ハ公家外の海上へ能細住へくすもし
雖風うて異国ハ漂着れるあるを例ハ
こうこう異国ハ漂着れ者へ先ハ一ハ此方
しるしはなかるへしあらへしこれ方
奏人ハ乎ハ奉法ハ法ハらして遠ハす
へうす此書ハ乎書きはかるハ人
先ハ知るまよ

右令條

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan